

こいた 小板まきばの里通信 Vol 13

～フキノトウを探してみよう～

小板まきばの里へようこそ。小板まきばの里は西中国山地国定公園内の南に深入山、北に臥竜山で挟まれた標高750mの山里、小板集落の一角にあります。2018年11月にこの地に移住してきたスタッフ2名が60年以上前に住人がいなくなり荒地と化した耕作放棄地を、この土地の自然の恵みを活用しながら手作りで開拓しています。このキャンプ場ならではの豊かな自然と波乱万丈の開拓現場の探索をお楽しみください。

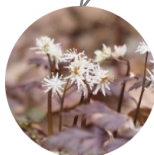
■キャンプ場周辺で春の植物を探索しよう！



アテツマンサク
(裏面★)



フキノトウ



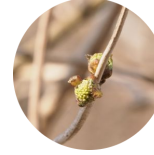
キクバ
オウレン



レンゲツツジ
(つぼみ)



ネコヤナギ



トネリコ



アセビ

■里山の自然観察 ～フキノトウをさがしてみよう～

3月になると日差しが一気に春めいて、雪もどんどん解けて地面が顔を出します。里山に春が来たのを告げるのは、「デーデポツポポ」と鳴くキジバトや「フィフィフィ」と鳴くゴジュウカラ、「カララララ」と木をたたいて縄張りを主張するアカゲラ等の鳥たちです。天敵が活動する前の水が冷たいうちに卵を孵す作戦のヤマアカガエルは「クプププ、クプププ」とかわいい声で春が来たことを教えてくれます。植物で春を告げるのは、山の斜面で小さな黄色いリボンのような花びらの花を咲かせるアテツマンサク、雪が解けたばかりの地面からきれいな黄緑色の球形の花をのぞかせているフキノトウです。実はフキノトウには雄株と雌株があって、花が白っぽくて指でつまんで柔らかければ雌株、花が黄色っぽくて指でつまんで硬ければ雄株なのだとか。また、キャンプ場の周辺には、直径が3cm程の山フキのフキノトウのほかに直径が5cm程もある普通のフキのフキノトウも咲いているので探してみましよう。